



新病院建設

第三期工事 鉄骨建方進行中

新病院建設は現在、第三期工事が 2018 年 12 月完成に向けて進められています。8 月に入り鉄骨建方が始まり、8 月中旬に終了する予定となっています。

第三期工事が完成すると新西棟の 1 階から 5 階までが病棟として全面的に運用が開始されます。待望の

緩和ケア病棟も完成します。

また、第三期工事が終わり次第、東棟は改修工事が始まります。

2020 年に向け、しばらくご迷惑をおかけいたしますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

医療福祉連携相談室だより

JO-HOKU No. 50

2018.9.1 summer



城北病院 院長 大野 健次

地域に根差した「笑って死ねる病院」

～ 来春、緩和ケア病棟運用開始へ～

1949 年戦後の混乱の中で、医療制度が十分でなかったために、「医療にめぐまれない人々に安くて親切な医療を、また働く人々が安心してかかれる診療所を」という願いに応える診療所として城北病院の前身であるしろがね診療所が開設されました。建設資金は賛同する支持者や地域住民によって準備されました。設立主体からいうと「国公立」や「私立」ではなく「住民立」の病院であるといえます。現在は県内で唯一の公益社団法人として存在しています。当院は開設当時から、無差別平等の医療を掲げ診療を行ってきました。無料低額診療、差額ベッドを取らないなどはその象徴です。

城北病院は現在新病院建設にむけて工事が進んでいます。工事ははじまり 2 年半が経過していますが、あと 2 年近く完成までにかかります。現地建て替えは長期に渡りなにかと不便ですが、城北病院の歴史を考えるとこの地を離れるわけにはいかないと考え現地建て替えを決断しました。2019 年の春には「笑って死ねる病院」の悲願とも言える緩和ケア病棟も運用が開始される予定で、最終完成は 2020 年の春です。さらに地域の方々の要望に応えることができるような病院として生まれ変わるつもりですので、なにかとご支援の程よろしくお願いいたします。

現在政府は超高齢化社会と多死社会にむけて地域医療構想の策定をする中で、看取り・終末期に重点をおいています。看取り・終末期を考えることは悪い事ではありませんし、医療機関はその事については今までも真剣に向き合ってきたと思っています。しかし病院で亡くなることに対して費用がかかるという一点で診療報酬上縛りをかけ、在宅や施設での看取りに無理に誘導しようとしている現在の政府の姿勢に対しては憤りを感じます。今後は人口減少社会でもあり、医療機関の在り方が再度問われる時代となっていますが、住民立の病院であることを自覚し、軸足は地域においてしっかりと地域に根差した病院として頑張りたいと思っています。

information

インフォメーション

皆様の参加を
お待ちしております

第2回 地域連携学習交流会

～ テーマ:「食べる」を支える part2 ～

日時 2018 9/27 木 18:30 ～ 20:30

場所 城北病院 リハビリ室

第19回 健康まつり

日時 2018 10/14 日
10:00 OPEN

場所 城北クリニック周辺

私たちが めざすもの

医療福祉宣言

城北病院 城北診療所 2015

- 1 患者の立場に立ち、インフォームドコンセントを大切にします。
- 2 専門的な力量向上に努め、安全安心の医療・福祉の提供をすすめます。
- 3 すべての人々の健康づくりを支援し、安心して住み続けられるまちづくりに努めます。
- 4 人権を守り無差別・平等の医療・福祉をめざします。

発行 城北病院 医療福祉連携相談室

〒920-8616 金沢市京町 20-3
TEL 076-251-6111 FAX 076-208-5231
http://johoku-hosp.com
E-mail renkeisitu@johoku.jp

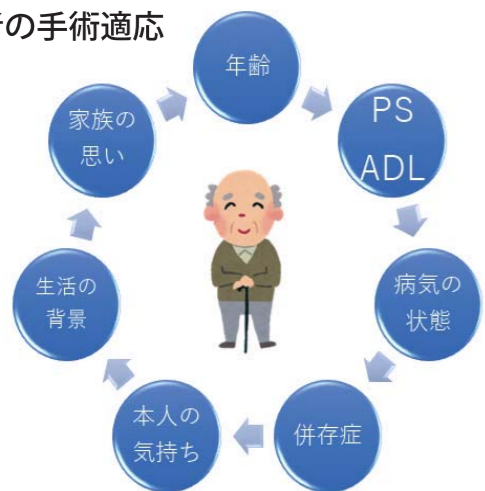


高齢者に対する がん治療と緩和ケアが Keyとなる



城北病院副院長・外科部長
三上 和久

高齢者の手術適応



Performance Status : PS

全身状態の指標の一つで、患者さんの日常生活の制限の程度を示します

- 0: まったく問題なく活動できる。発症前と同じ日常生活が制限なく行える。
- 1: 肉体的に激しい活動は制限されるが、歩行可能で、軽作業や座っての作業は行うことができる。
- 2: 歩行可能で、自分の身のまわりのことはすべて可能だが、作業はできない。日中の50%以上はベッド外で過ごす。
- 3: 限られた自分の身のまわりのことしかできない。日中の50%以上をベッドか椅子で過ごす。
- 4: まったく動けない。自分の身のまわりのことはまったくできない。完全にベッドか椅子で過ごす。

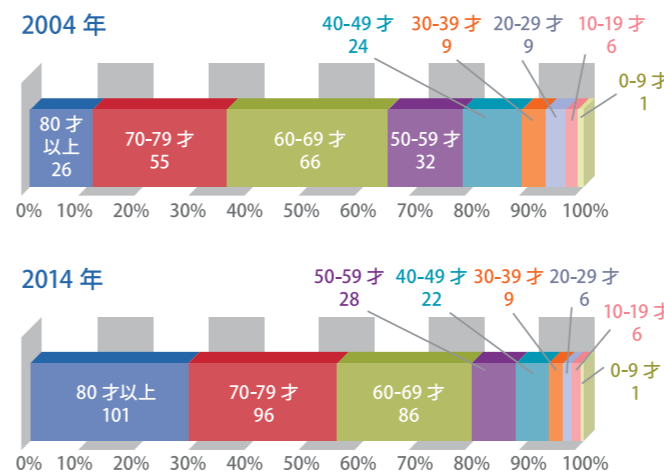
高齢・多死社会が到来するなか、疾患別死亡のトップは悪性新生物が独走しています。医学の進歩によって各種がんの生存率は上昇傾向にあります。人口高齢化を主要因としてがん罹患数とがん死亡数はともに増加し続けています。そのため、当院では以前から高齢者に対するがん治療（低侵襲手術、抗がん剤治療）と緩和ケアに力を入れてきましたが、今後はさらにその重要性が増してくるものと思われます。

当院で手術を受けられた患者さんの年齢分布データをみますと、80歳以上の手術症例数は10年前と比べてなんと約4倍に増加しています。私が研修医だった2000年頃は80歳以上の手術適応は慎重に判断するという時代でしたが、今では80歳以上の手術は全くもって珍しくありません。お元気な方であれば、90歳以上で手術を受けられる方もいます。平均寿命が伸びただけでなく、健康寿命も伸びてお元気な高齢者が増えていることも大きな要因と思われます。

当院の外科には、他施設で高齢を理由に手術や抗がん剤などのがん治療を断られた患者さんや、認知症などの併存症を理由に治療できないと言われた患者さんがしばしば受診されます。当院では、ただ高齢や認知症という理由だけで治療対象から外すことはしません。まずはご本人のがんの病状、併存症や元気さなどの体の状態、家族などの生活背景、患者さんやご家族の意向をしっかり把握・評価したうえで、がんの治療をしたいという患者さんやご家族の希望に可能な限り添えるような努力を行っていきます。

当院が高齢者のがん治療を得意にしている要因としては、内科やリウマチ科などに通院されている高齢者や併存症を持つ患者さんが多く看護師をはじめとしたスタッフが高齢者に慣れていること、多職種による認知症ケアチームが活動していること、術後リハビリを担当するリハビリスタッフが充実していること、精神科常勤医がいること、低侵襲手術である胸腔鏡・腹腔鏡手術を得意にしていること、高齢者にあわせて抗がん剤治療を行うことができる腫瘍内

当院の手術患者の年齢分布

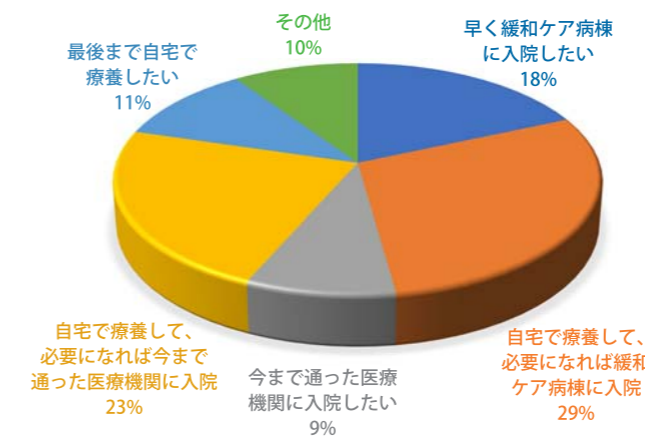


▶ 80歳以上の手術症例は約4倍に

科医がいること、急性期病棟だけでなく回復期リハビリテーション病棟や医療型療養病棟も擁するケアミックス型病院であること、さらに在宅部門も有することなどが挙げられると思います。

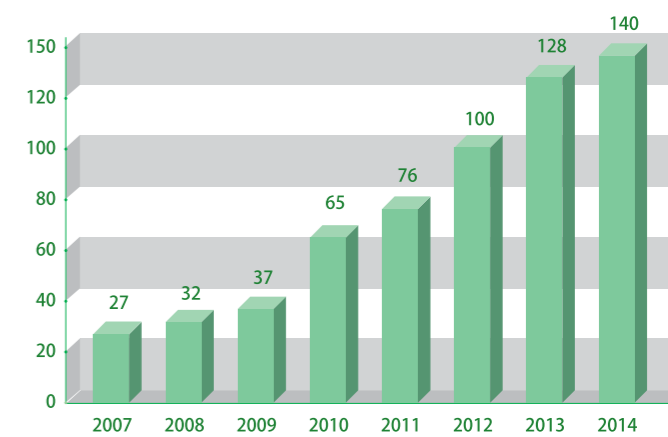
もちろん治療のやりすぎは良くないため、高齢者の早期がんであれば治療せず経過観察という選択肢もあるでしょうし、いくら手術を希望されても全身状態からリスクが高いためしない方がよいという判断をすることもあります。大事なことは、高齢や認知症のためにはじめから治療を諦めないで頂きたい、まずは受診・相談して頂きたい、そしてその患者さんにとってベストの方針を決めていきたいということでもあります。

終末期の療養場所に関する希望



厚生労働省 終末期医療に関する調査（平成20年）

当院の腹腔鏡手術数の推移



腹腔鏡手術症例数（2007年—2014年）

積極的治療を行うがんがある一方で、残念ながら治すことが困難ながんも多くあります。高齢・多死社会の到来とともに、がんで亡くなる高齢者は今後も増加していきます。死は誰にでも訪れるものですが、がんで亡くなる方に対して少しでも苦痛がなく、その人らしい時間を過ごすべく、当院では2019年春から念願の緩和ケア病棟を開設致します。石川県では3番目の開設となり、全床個室の20床、差額ベッド代は頂きません。緩和ケア病棟は現在建設中の新病院最上階の5階に入るため、西側は北陸新幹線や金沢駅周辺、東側は卯辰山などが一望できる眺望の良い新しい病室で、当院の緩和ケアを受けて頂くことができます。当院では以前から緩和ケア担当医、認定看護師、薬剤師を中心とした緩和ケアチームが活動しており、緩和ケアの質をあげるべく努力を続けておりますので、是非緩和ケアの対象となる患者さんをご紹介頂きたいと思っております。

手術や抗がん剤など治療ができるがん、治すことが困難で緩和ケアとなるがんなど、いろいろながんがあります。どのようながんも今後は増加していくため、特に高齢者のがんにどう向き合っていくかがKeyとなってきます。年齢や認知症などの併存症、所得や生活背景などによって差別されることなく、すべての方が最適ながん治療を受けられるよう、がんで困る患者さんが一人でも減る世の中になるように微力ながら努力していきたいと思っております。今後ともご支援のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

連携室だより 50号の歩み

今回、城北病院の医療福祉連携相談室だよりは50号を迎えました



▲ 創刊号



▲ 第2号



▲ 「編集用ソフト」登場！



▲ 外部委託も取り入れ

発行部数が多くなるに連れ、外部委託も取り入れ、モデルチェンジをしながら現在の形となっています。

創刊は2002年夏号で、「城北病院地域連携室だより」として始まりました。自家用救急車の導入、診療科別から病期別への病棟再編、地域医療連携室のご案内、高圧酸素治療装置の更新が記事として残っています。Wordで作成し、当時の原院長自らが校正を行っていました。

「編集用ソフト」導入！編集が格段に行いやすくなりました。当時は印刷・送付もすべて連携室で処理をしていました。

バックナンバーに目を通すと、その時折の社会情勢やできごと、病院として何に力を入れて取り組んでいたのかが伝わってきます。これからも、各医療機関・施設、患者さん・利用者さん、地域に向けて発信していけるように、紙面を充実させていきたいと考えています。



▲ モデルチェンジをしながら現在の形へ



地域と共に 夏 summer



7/27(金) 浅野川水害 10 周年職員集会を開催しました

今年は、浅野川水害から 10 周年目にあたる節目の年です。西日本豪雨災害など、水害が相次ぐ中で、浅野川水害の教訓と城北病院が果たした役割を若い職員に継承していくため、地域の皆様にも参加いただき、浅野川水害 10 周年職員集会を開催しました。

当日は、地元の TV 局や新聞社からの取材もあり、当時の被害の状況やボランティア活動を振り返りながら、水害後に行われた対策などを確認しあいました。改めて、水害への備えの重要性を認識することができたと思います。あわせて、西日本豪雨災害への募金の協力もよびかけました。



7/31(火) 熱中症訪問を行いました

異常な猛暑が続く中、恒例になっている浅野健康友の会高齢会員宅への熱中症訪問を行いました。当日も気温 35 度に近い暑さの中、多数の職員、友の会会員の参加で、100 軒を超える訪問を実施しました。

皆さん、熱中症を気にしながらエアコンを上手に利用した生活を送っておられました。中にはエアコンのないアパートの 2 階で生活されている方や、「自分は心配ないが近くの〇〇さんが心配だから見てきて」などの情報もいただき、改めて地域のつながりを活かす大切さを考えさせられた訪問行動になりました。

8/4(土) ピースフェスタ(平和盆踊り)を開催しました



城北病院では、毎年、浅野健康友の会と共催で、ピースフェスタを開催しています。今年も、地域の皆様、友の会会員、職員あわせ約 500 名の参加で、盛大に執り行われました。

今年は、前日に実施した「盆踊り講習会」の成果もあり、踊りの輪も広がる中で、模擬店や青年職員の「核兵器禁止条約」について調べた発表など、楽しみながら「平和」について思いを巡らせる一時となりました。

